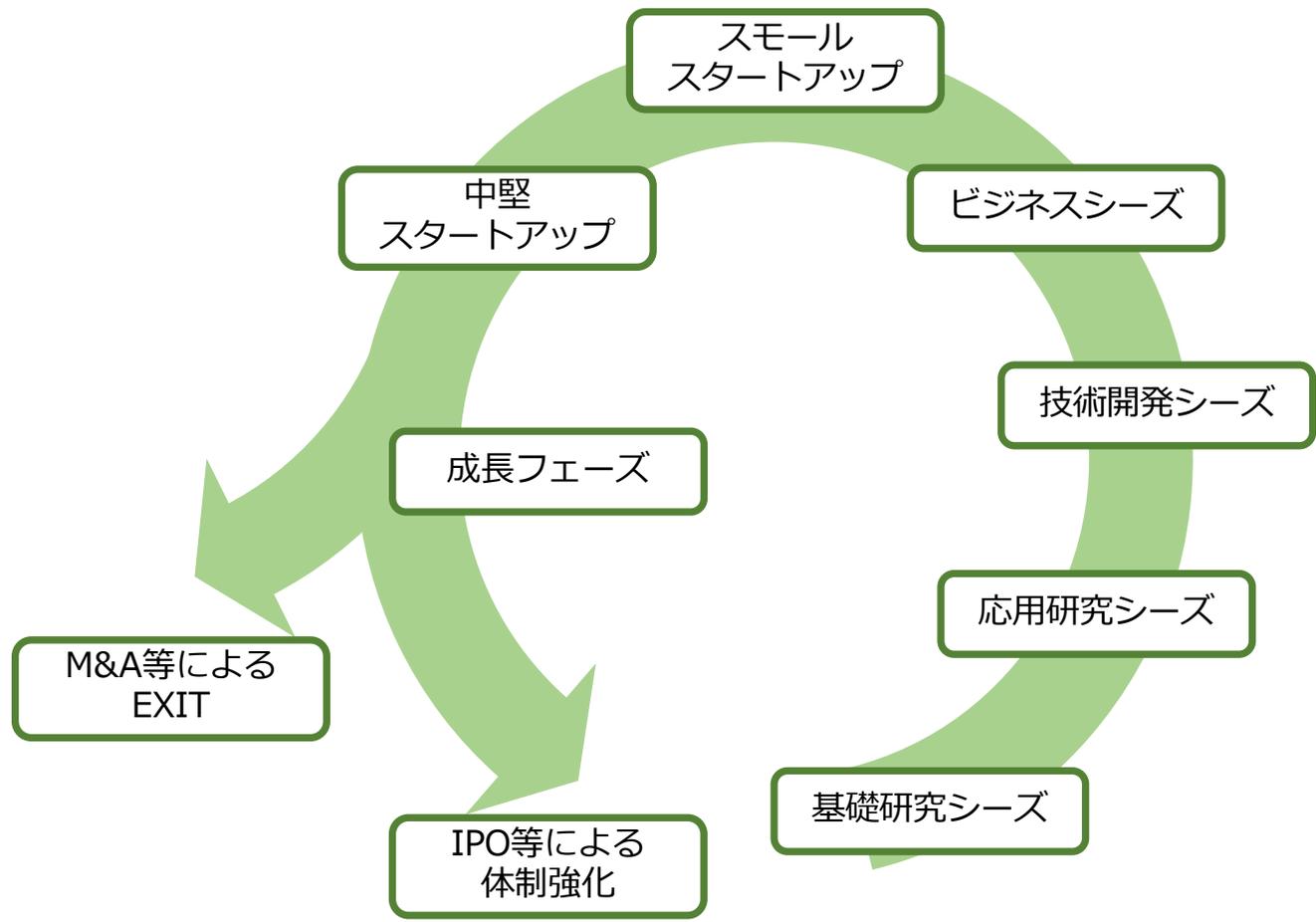


# 論点1: 「スタートアップエコシステム」の認識合わせが不可欠ではないか?



例えば、スタートアップエコシステムとしてこのような循環を考えたとき、どの範囲を、どのように、GSUCで実施するのか?

- ✓ ビジネスシリーズからスモール・中堅スタートアップ、さらには成長フェーズにつながるのは、VCとの協働、インキュベーション機能の充実で対応できそう。
- ✓ MIT等との議論だと、かなり基礎研究・応用研究シリーズ側の共同研究から始まるイメージがあるが、それを技術開発・ビジネスシリーズにつなげるにはひと工夫が必要ではないか。
- ✓ この際、基礎・応用研究を実施している(日本の)研究者にとっては、技術開発・ビジネス研究を中核に据えると、論文業績になりにくく、抵抗感が生じうる。海外大学のように教員業績評価を論文数ベースからインパクトベースに変える取り組みを同時に推進する必要がある。
- ✓ 日本のスタートアップはEXITへの志向が強くないので、ここを強化する方策が必要かも。

## 論点2：GSUCと大学のキャンパスとの差別化が必要ではないか？

各大学でもスタートアップ育成に取り組んでいる。どのようにGSUCを差別化するのか？

- ✓ 現在、日本の各大学に不足している、スタートアップエコシステムを駆動できる人材養成を担うのは一案。ただし、将来的には各大学にもこうした人材が育ってくるであろうことを考えると、限定期間のみか？
- ✓ スタートアップビジネスの対象を差別化できるか？ 例えば、大学のオンキャンパスでは行いにくい安全保障領域のビジネスもGSUCでは対象とするか？（米国大学のSUはこうした領域のものが少なくない）その際には、GSUCには（広い意味での）セキュリティクリアランス機能が必要になる。

